

第2分科会 高等学校

**生徒の「やりたい」を
学校を含めた地域社会全体で
支える**

発表者

**新潟県立津南中等教育学校 常勤講師
(元三重県立飯南高等学校 校長)**

土方 清裕

学校所在地	児童生徒数	学校運営協議会			地域学校協働活動 推進員数
		設置年度	委員数	年間開催回数	
三重県松阪市	定員240名	令和3年度	13名	3回	0名

学校教育目標

- 変化の大きいこれからの社会で、自分らしくたくましく「生きる力」（対話力・追究力・創造力・発信力）を育成する学校
- 高校生が地域に貢献し地域を活性化させる、「地域創生の核」となる学校

学校・地域の特徴

松阪市西部の中山間地に所在。昭和23年設置。平成11年度に、全国初の連携型中高一貫教育を導入。同時に普通科から総合学科に改編。1学年80人定員の小規模校。「自分らしくたくましく『生きる力』（対話力・追究力・創造力・発信力）」を付けることを学校目標にしている。平成30年度より地域との協働を再強化し、「社会に開かれた教育課程」の実現をめざし、「地域を学び場とした探究活動」に力を入れている。

学校運営協議会の概要

委員の構成

同窓会長
（学校運営協議会会長）
地元住民協議会会長
PTA会長
PTA役員
小中学校保護者兼下宿運営協議会委員
市教育長
市地域振興担当理事
市飯南地域振興局長
市飯高地域振興局長
市西部教育事務所長
飯南中学校長
飯南中学校校長
校長

これまでの主な議題例

- ・飯南高校で生徒に付けたい力（対話力・追究力・創造力・発信力）について
- ・地域を学びにした探究活動の充実について
（1年次「産業社会と人間」の地域のフィールドワーク
2年次「キャリアデザイン」におけるインターンシップ、「本気の大人」講演会
3年次「いいなんゼミ」での生徒への伴走
2・3年次各系列科目での協力について、等々）
- ・小中高が連携したコミュニティ・スクールの在り方について

地域学校協働活動の 特徴的な取組や工夫など

「地域を学び場にした探究活動」への協力、具体的には、フィールドワークの生徒の移動手段の確保、フィールドワーク先の紹介、生徒主催のイベントの運営委協力等。インターシップの受け入れ。飯南高校の教育をより良いものにしていくための議論。



←市のスクールバスで地域のフィールドワークへ。



←応援団 Circleの「空き家片付けプロジェクト」への協力

- 三重県松阪市飯南町（旧飯南郡飯南町）に所在
- 昭和23年設立（平成30年度 創立70周年）
- **1学年80人定員**（2⇒3クラス展開）
- **連携型中高一貫教育校**（平成11年度 全国初）
- 全日制 **総合学科**（平成11年度 普通科から改編）
 - 4系列 **郷土・環境**
 - 介護福祉**
 - コンピュータ**
 - 総合進学**
 - （当初は**国際コミュニケーション**）
- 進路 およそ 進学30% 就職70%

H29年3月 「県立高等学校活性化計画」策定（～H33年度）

- ・ 1 学年 3 学級以下の小規模校に「学校別活性化協議会」を設置し、学校の活性化に取り組む旨が明記される。

H29年5月 飯南高等学校活性化協議会設置

H31 (R元) 文科省「地域との協働による高等学校教育改革推進事業（地域魅力化型）」採択を受ける。（～R3年度末）



「地域人材育成コンソーシアム・いいなん」を設置

R3年4月 飯南高校学校運営協議会 設置

飯南高等学校活性化協議会 構成員

委員長	飯南高等学校	校長
副委員長	飯南高等学校	P T A 会長
委員	松阪市教育委員会	教育長
	松阪市企画振興部	地域振興担当理事
	松阪市企画振興部	飯南地域振興局 局長
	松阪市企画振興部	飯高地域振興局 局長
	松阪市西部教育事務所	所長
	粥見住民自治協議会	会長
	松阪市立飯南中学校	校長
	松阪市立飯高中学校	校長
	松阪市立中部中学校	校長
	松阪市立東部中学校	教諭
	飯南高等学校	同窓会 会長

H30年度 着任時の課題

- ① 少子高齢化、過疎化による学校の存続問題
- ② 連携型中高一貫教育の捉え直し
- ③ 総合学科の再生

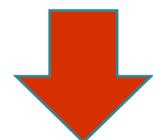
課題解決に向けた考え方

①②③の課題は . . .

「**これからの社会**で**求められる力**の育成」という考え方で**全て解決**できる。



「**答えが一つでない問い**」に対して、**他者と協働**して、「**正解**」ではなく「**納得解**」を**創り出す力**



「**地域を学び場とした探究活動**」を！

地域社会全体を学校と捉える

観光

歴史

ビジネス

自然

行政

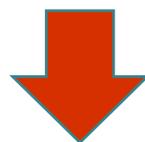
農業

ICT

福祉

飯南高校は・・・

「世界の最先端の学び」ができる学校



地域を学び場にした探究活動



(地域課題解決型キャリア教育)

目指す学校像

○変化の大きいこれからの社会で、
自分らしくたくましく「**生きる力**」
（**対話力・追究力・創造力・発信力**）
を育成する学校

○**高校生が地域に貢献し**
地域を活性化させる、
「**地域創生の核**」となる学校

3 学校運営協議会設置までの取組

地域との協働による高等学校教育改革推進事業

令和2年度予算額
(前年度予算額)

252百万円
251百万円)



新高等学校学習指導要領を踏まえ、地域を分厚く支える人材の育成に向けた教育改革を推進するため、「経済財政運営と改革の基本方針2019」や「まち・ひと・しごと創生基本方針2019」に基づき、高等学校が自治体、高等教育機関、産業界等との協働によりコンソーシアムを構築し、地域課題の解決等の探究的な学びを実現する取組を推進することで、地域振興の核としての高等学校の機能強化を図る。

高校生と地域課題のマッチングを効果的に行うためのコンソーシアムを構築

- ◆ 地域との協働による活動を学校の教育活動として明確化
- ◆ 専門人材の配置等、校内体制の構築
- ◆ 学校と地域とをつなぐコーディネーターを指定
- ◆ 将来の地域ビジョン・求める人材像を共有し、地域協働に資する学習カリキュラムを開発

【コンソーシアム】



地域の実情や人材ニーズに応じた取組を展開

(R2新規指定 14校)
(R1指定校 51校)

【プロフェッショナル型】15校
地域の産業界等との連携・協働による実践的な職業教育を推進

〔※専門学科を中心に実施
(R2指定校 4校)〕

【地域魅力化型】26校
地域課題の解決等を通じた学習カリキュラムを構築し、地域ならではの新しい価値を創造する人材を育成

〔※普通科を中心に実施
(R2指定校 6校)〕

【グローバル型】24校
グローバルな視点を持って地域を支えるリーダーを育成

〔※全学科を対象に実施
(R2指定校 4校)〕

【PDCAサイクル構築のための調査研究】

成果指標等の作成検証等による地域との協働による教育改革のPDCAサイクルの構築、成果普及のための全国サミット等を実施

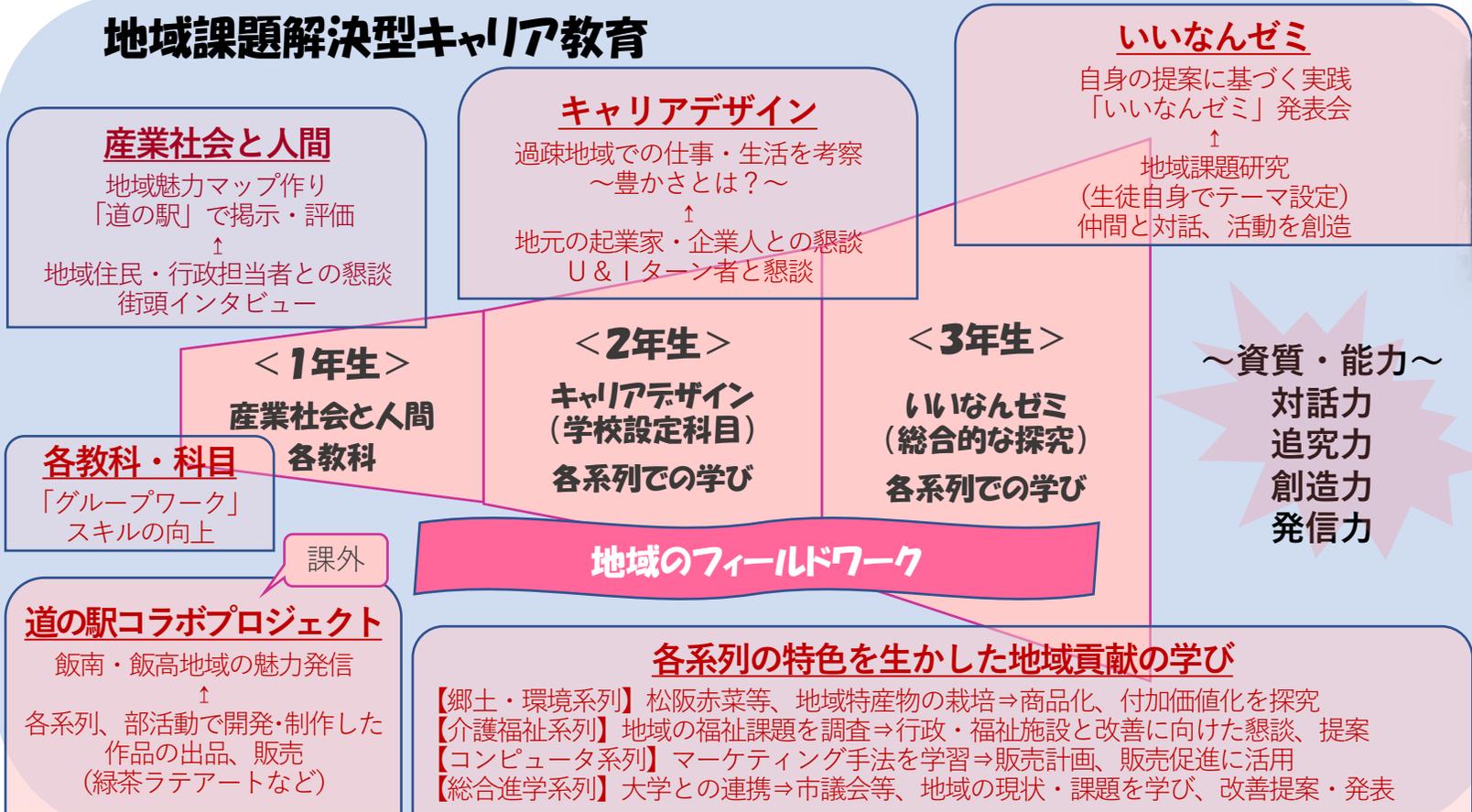
「チームいなん」の挑戦 ～未来を切り拓く“地域に根ざした人材”育成～



【育成する地域人材像】

自ら考え挑戦したり、多様な価値観を持つ人々と対話・協働したりしながら、
 地域への愛着を持って、地域に貢献し、地域の未来を切り拓くことのできる **地域に根ざした人材**

地域課題解決型キャリア教育



【校門から校舎へと続く杉並木】

地域課題解決型
 キャリア教育推進委員会(仮称)
 (運営指導委員会)

検証・助言



【「飯南」Tシャツ】



【緑茶ラテアート】



連携



支援



「生きる力」

①【対話力】

地域に飛び出し、地域住民や職業人等、様々な立場の人々、世代を越えた人々の思いや考えを聴き取り共感しながら、コミュニケーションできる力

②【追究力】

地域の伝統文化や産業、魅力等について調べたり体験したりすることを通じて、課題や改善点を把握・整理する力

③【創造力】

自らの技術を磨き、他者とかかわり合いながら、仮説を立て、地域課題の解決に向けた取組や活動を創造する力

④【発信力】

地域課題を解決するための具体的な提案や活動等を効果的に発信する力

【カリキュラム開発の方向性】

① 総合学科の柱の3科目のアップデート

「産業社会と人間」

「キャリアデザイン」

「いいなんゼミ」→地域課題解決型探究活動の充実

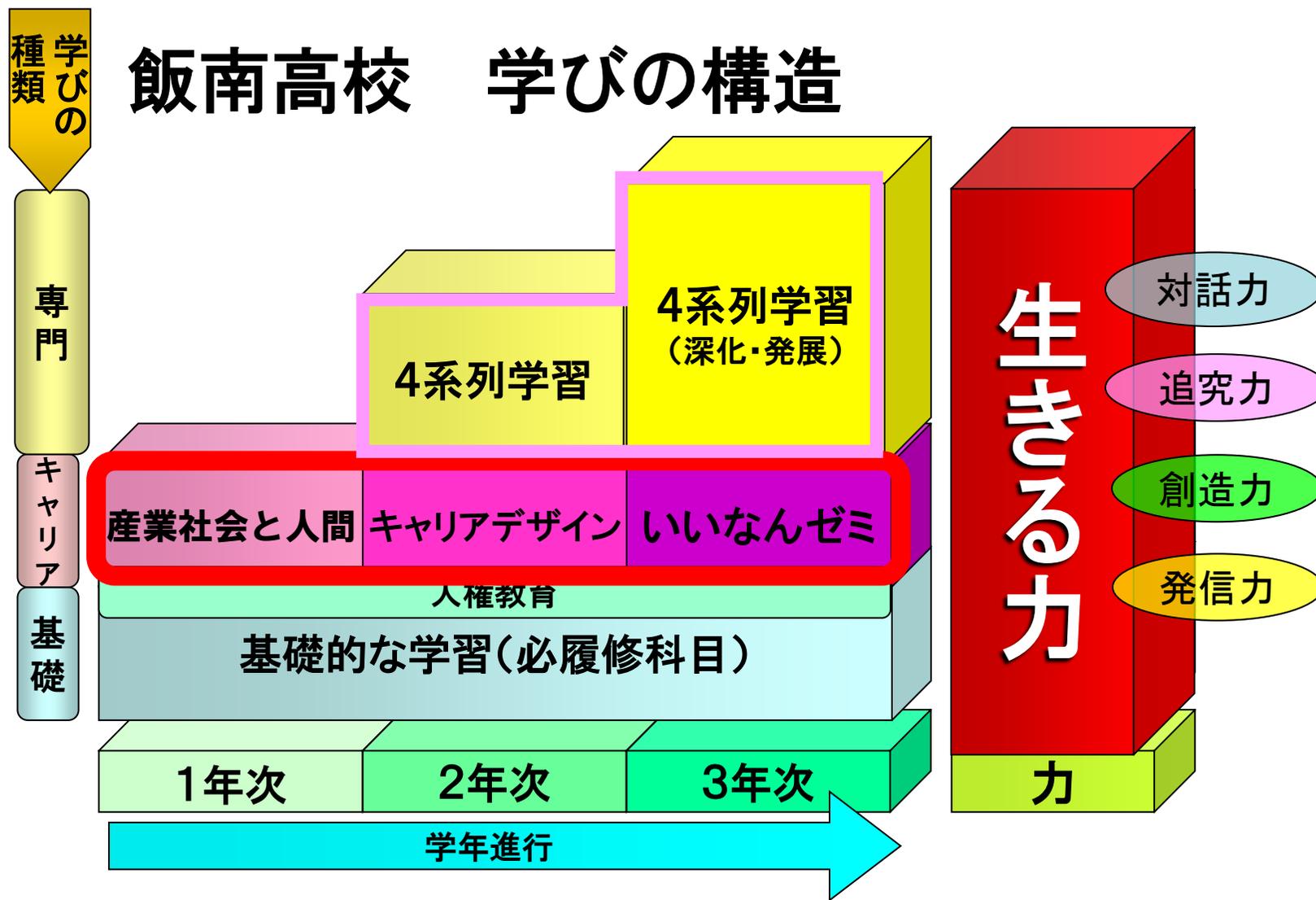
② 4系列の特色を活かした地域貢献のための学習活動の充実

「郷土・環境」「介護福祉」「コンピュータ」

「総合進学」

③ グループワークスキルを授業内に取り入れ、対話的な授業改善を行う。

地域の題材・データを扱いながら、日常的な学びと地域・社会との連動を図る。



3 学校運営協議会設置までの取組

平成31年度入学生教育課程表																															
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
1 年次	必修修科目																														
	国語総合				現代社会			数学 I			化学基礎		体育		保健	音楽 I 美術 I 書道 I	コミュニケーション英語 I			家庭総合	社会と情報	産業社会と人間	LHR								
2 年次	必修修科目および共通履修科目																														
	系列	郷土・環境													キャリアデザイン	LHR	農業と環境		郷土の産業		野菜	デザイン加工基礎 I	木考学								
		介護福祉	現代文 B				地理 A		数学 A		科学と人間生活		体育		保健	家庭総合	文系総合	介護福祉基礎	社会福祉基礎	生活支援技術	介護総合演習	ここからの理解	地域福祉演習	ボランティア基礎	スポーツ II						
		総合進学																コミュニケーション英語 II	社会科学入門	国際社会と日本	国語表現	古典 A	政治経済								
		コンピュータ																簿記		ビジネス基礎	情報処理		マーケティング								
自由選択																									数学 II	生物基礎	音楽 II 美術 II 書道 II				
3 年次	必修修科目および共通履修科目																														
	系列	郷土・環境													LHR	環境の保護		総合実習		造園計画	郷土の自然	デザイン加工基礎 II									
		介護福祉	現代文				世界史 A		自然科学(理・数)		体育		文系総合		総合的な探究の時間(いいなんゼミ)	介護福祉基礎	生活支援技術	介護総合演習	介護過程	介護実習	ここからの理解	地域福祉演習	コミュニケーション技術	スポーツ II							
		総合進学														英語理解	国語実践		時事英語	日本史 B	社会科学発展										
		コンピュータ														財務会計 I	原価計算		ビジネス実務	生物	数学 B										
自由選択																									基礎数学演習	理科工作	生活文化	数学 II			

連携中学校との取組
「道の駅コラボプロジェクト」

美術部
「緑茶ラテアート」活動

應援団Circle
「商品開発『木の手帳』」
「空き家片付けプロジェクト」
等

課外活動



【実施体制】

地域協働学習実施支援員

松阪市が地域おこし協力隊を募集
(飯南・飯高地域の活性化)

任務の一環として

「飯南高校の活性化に関すること」



横山陽子さん (R1年10月1日より)

高杉 亮さん (R2年10月1日より)

飯島宏枝さん (R3年10月1日より)

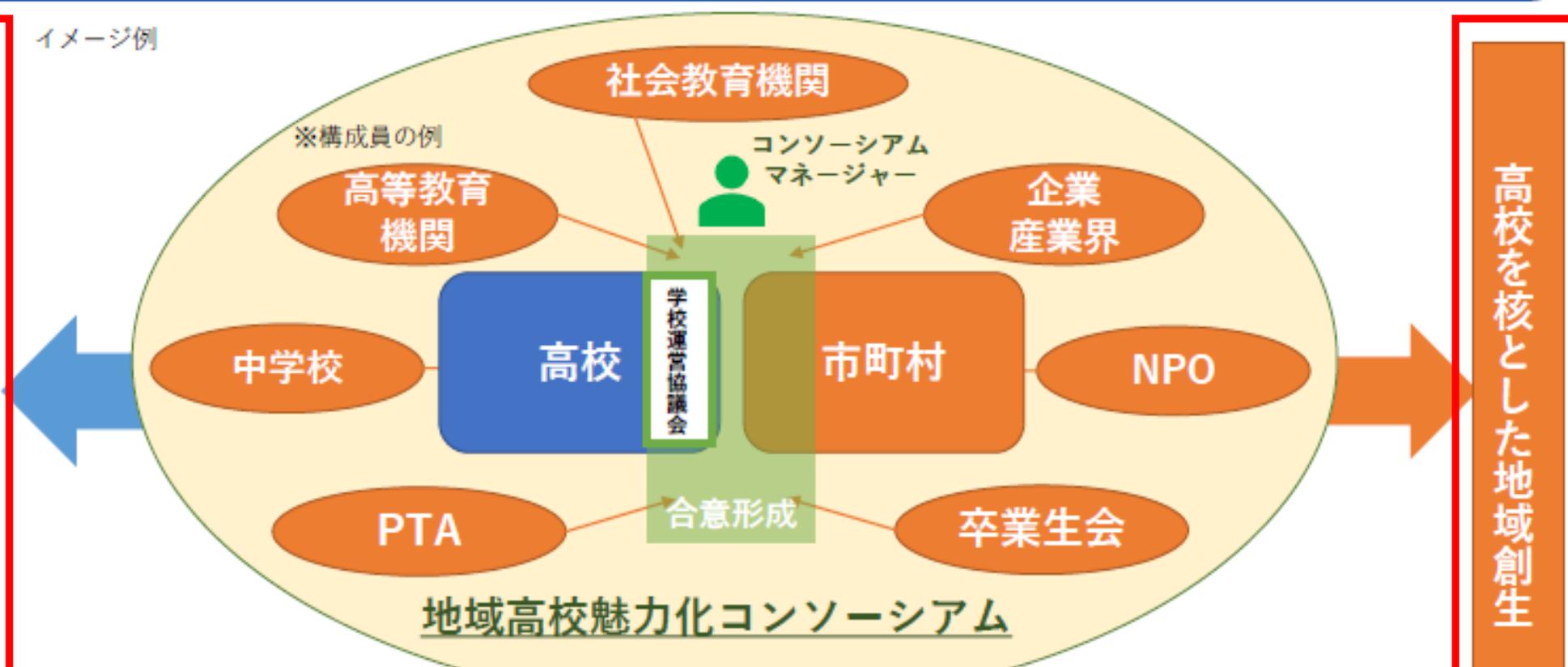
○学校運営協議会と地域学校協働活動を一体的に運用し、「社会に開かれた教育課程の実現」と「学校を核とした地域創生」の好循環の基盤となる協働の組織体制（地域高校魅力化コンソーシアム）を構築。

■コンソーシアムは、ボランティアによる緩やかなネットワークに加え、合意形成と協働活動を一体的かつ安定的・計画的・持続的に行えるようにするための構成員・規約・予算等を有する組織である。

■コンソーシアムの構成員の代表者がコンソーシアムの合意形成の場（学校運営協議会を兼ねることができる）に参加することで、学校運営協議会と地域学校協働活動の一体的推進が図られる。

■コンソーシアムの構成員は、高校・地域ごとの協働の目的によって柔軟に設定でき、多様な形が考えられる。高校生自身も参加できる機会があることが望ましい。

イメージ例



【地域高校魅力化コンソーシアムの機能】

- ・協働体制の構築・運営（ビジョン・計画づくり、事業・会議の運営等）、外部資源獲得等の経営的機能
- ・地域との協働による学校運営の改善や地域社会と関わる教育課程の企画・運営・支援等の学校教育的功能
- ・地域資源の掘り起しや学校外での高校生の学習活動構築、地域人材の育成等の社会教育的機能 など

H30年度からR2年度までの取組を
深化させ、持続可能性を高めるために
R3年度から、正式にコミュニティ・ス
クールにしたいと考えた。

コミュニティ・スクールにする背景

- ・次期「三重県高等学校活性化計画」（R4年度～）で、活性化協議会がどうなるか分からない。

- ・「地域との協働による高等学校教育改革推進事業（地域魅力化型）」の指定が、R3年度末で終了する。



文科省事業が終了しても、「地域人材育成コンソーシアム・いいなん」は継続していけると考えた。

- ・しかし、学校の方向性や教育内容の議論を継続するためには、「活性化協議会」に代わる、核になる組織が必要だと考えた。

コミュニティ・スクールにする背景

・松阪市は市内の小中学校を全てコミュニティ・スクールにする方針で、既に連携中学校である飯高中学校がH29年度から、飯南中学校がR2年度から、コミュニティ・スクールになっていた。



・中高がコミュニティ・スクールでつながることで、地域との協働をより深化させたい。
(地域全体の教育力を高めることにつながるのではないか)



保幼小中から高校までがつながった教育ができるのではないかというイメージ

(市立(保幼小中)の養護教諭の会議に、飯南高校の養護教諭が参加する等)

R3年4月1日

飯南高等学校学校運営協議会 設置

(委員は、活性化協議会をベースに)

飯南高等学校 学校運営協議会委員

飯南高等学校同窓会 会長

粥見住民自治協議会 会長

飯南高等学校PTA会長

飯南高等学校PTA顧問（前会長）

下宿運営連絡会 委員

松阪市教育委員会 教育長

松阪市企画振興部地域振興担当理事

松阪市企画振興部飯南地域振興局 局長

松阪市企画振興部飯高地域振興局 局長

松阪市西部教育事務所 所長

松阪市立飯南中学校 校長

松阪市立飯南高等学校 校長

飯南高等学校 校長

R3年度は

- ・ 活性化協議会
 - ・ 学校運営協議会
 - ・ 地域人材育成コンソーシアム・いいなん
- の三つの会議を、同時並行で行なった。

R3年度は、
県立高等学校活性化計画最終年にあたり、
県教委との協議、意見交換もあり、
校長を含めて教員の考え方、学校運営協議
会委員の考え方は、かなり深まった。

並行して、文科省事業完成年度となり、
生徒の姿にもこれまで以上に
大きな変化が現れ始めた。

生徒の変化

今までなら、
飯南高校でも埋もれていた
(かもしれない)

生徒が「**自走**」し始めた。

なぜ自走？

- ・ **小さな成功体験の積み重ね**
自己肯定感の醸成
- ・ **安心感**
失敗しても大丈夫
手を伸ばしたらきっと誰かが
助けてくれる
- ・ **「やりたい」と言っても良い**
- ・ **大変だけど楽しい＝探究**
- ・ **先輩の姿から学ぶ**

私たちが学んだこと

生徒の劇的な成長には

「本気の大人」の
「本気の伴走」

私たちが学んだこと

生徒の成長には
限界がない。

「地域課題解決型キャリア教育」から 「地域を学び場とした探究活動」へ

- ・ 地域課題の解決は手段であって目的ではない
(地域課題の解決をしなければいけないわけではない)
- ・ 生徒一人ひとりのやりたいことを、
学校を含めた地域全体で支援する。
＝地域全体で若者を育てる

学校運営協議会での議論

- ・「飯高中をCSにするときに『CSは子どもたちを地域に縛るものではないか』という議論をしたが、そうではなく、子どもたちによい教育環境を作るためのものだという結論になった。」

- ・（コンソーシアムの第1回委員会で）

「生徒に『課題を解決しよう』って言うんですか」



地域課題の解決ではなく、生徒の「やりたい」ことを学校を含めた地域社会全体で支えることで、生徒の生きる力を育成すること。

「学びの個別最適化」と「社会に開かれた教育課程」を実現するには、地方の小規模校が圧倒的に有利。

生徒に付けたい、これからの社会で「生きる力」を、学校と地域で共有することが大切。

「地域を学び場とした探究活動」を推進し、「自走する生徒」の育成を目指そう。

生徒一人ひとりを肯定し、個々の生徒の「やりたい」という気持ちを、学校を含めた地域社会全体で支えるという考え方を。

生徒が劇的に成長すると、関わった大人も成長し、皆の幸せが向上する。